

第402回 産業事情検討会

おもちゃ美術館の魔法

講師：多田千尋氏

特定非営利活動法人
芸術と遊び創造協会
理事長

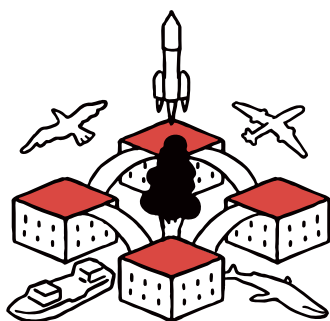
司会：大槻裕志

(株)現代経営技術研究所 所長

2026年8月31日(月)

15:00~17:00

Zoom によるオンライン開催



おもちゃ美術館の魔法

- I. 人々を笑顔にする木のおもちゃの魔法
- II. 赤ちゃんから高齢者まで、誰もが居場所を見つけられる魔法
- III. 地域の物語を再創造する魔法
- IV. 森の国、日本の未来をつくる魔法
- V. 質疑応答

2008年、新宿の廃校となった小学校に開館した東京おもちゃ美術館。木のおもちゃを通して親子がともに遊び、木のぬくもりや自然とのつながりを学ぶ「木育」の理念と、「おもちゃ学芸員」の資格をもつボランティアによる、熱意と創意あふれる運営が、多くの人々の心を捉えてきました。現在では年間約12万人が訪れる人気の多世代交流ミュージアムとなり、地域に欠かせない存在へと成長しています。

しかし、本当の驚きはその先にあります。東京おもちゃ美術館で生まれた理念としくみが、いま全国へと広がっているのです。それぞれの街や村の大切な記憶を受け継ぐ場所に、すでに16の姉妹おもちゃ美術館が誕生しました。本年8月に御殿場市に「富士山木のおもちゃ美術館」、2027年に大府市に「おおぶ木のおもちゃ美術館」が開館予定で、2030年には全国24館に達する見込みです。

世界を見渡しても、このように一つのミュージアムの理念が、各地域の特色を生かしながらこんなにも全国へ広がった事例はほとんどありません。なぜ人々はおもちゃ美術館に心を動かされ、自らの地域にもつくりたいと願い、なぜ多くの人々が夢になって運営に参加し、そして多くの人々がそこに集うのでしょうか。そこには、どのような「魔法」があるのでしょうか。

今回は東京おもちゃ美術館の館長としてこのムーブメントを起こし、その先頭に立って牽引してこられた芸術と遊び創造協会 理事長 多田千尋氏をお招きしておもちゃ美術館の魔法―理念としくみの魅力―を解き明かし、その未来を展望して頂きます。

ご参加をお勧めします。

講師プロフィール
多田千尋氏
(ただちひろ)

特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会理事長、東京おもちゃ美術館前館長（2025年退任）、高齢者アクティビティ開発センター代表。お茶の水女子大学講師、早稲田大学講師。

2008年、東京・新宿の廃校の小学校に開設した「東京おもちゃ美術館」の経営が評価されて週刊ダイヤモンドで「日本の社会起業家30人」の一人に選出される。また、寄付社会の構築で評価され、「2014クラウドファンディング」「2015ファンドレイジング」のそれぞれで大賞を受賞。

2011年から開始した地域で生まれた赤ちゃんに、地産地消の木のおもちゃを祝い品として贈る「ウッドスタート」事業は全国の多くの自治体、企業からの賛同と参加を得て日本の森林の価値を高めるムーブメントへと発展している。2018年2月、ウッドスタート事業の仕組みが評価されて文部科学大臣賞を受賞。現在、全国の姉妹おもちゃ美術館と連帯して地方創生の新しいかたちづくりに取り組んでいる。